



公開ワークショップ

日本語の文理解研究のこれまでとこれから

日時：2014年9月27日（土）13:00–17:20

場所：九州大学・箱崎キャンパス・国際ホール

主催：九州大学文学部言語学・応用言語学研究室 矢野 雅貴

司会：矢野雅貴（九州大学大学院, JSPS）

13:00–13:30

安永 大地（金沢大学）・村岡 諭 日本語文処理における先読みとその仕組み

13:30–14:00

大石 衡聴（立命館大学） 脳波を用いた文処理研究の新しい可能性：
周期性振動活動の変化から文処理を探る

14:10–14:40

小野 創（津田塾大学） Active Structure Predictions and
Subcategorization Information

14:40–15:10

宮本エジソン正（筑波大学） Where does are due: representations,
algorithms, heuristics, rationality, morality,
and the kitchen sink

15:10–15:40

馬塚れい子（RIKEN BSI, Duke University）
日本語文理解研究の30年

15:50–16:20

萩原 裕子（首都大学東京） 言語理解と事象関連電位研究のこれから

16:20–16:50

荒生 弘史（大正大学） より簡潔な文で有用な ERP 取得を目指して
—3語文から2語文、そして2語同時呈示へ—

16:50–17:20

諏訪園 秀吾（沖縄病院） 事象関連電位の効用と限界—臨床家の立場から—